

# 居場所

田  
畑

優  
輝

【人物一覧表】

上野	（30）	：	主人公・スーパーのパート
片岡	（24）	：	スーパーの常連
尾身	（58）	：	スーパーの店長
山田	（45）	：	スーパーのパート
茂木	（46）	：	スーパーのパート
警備員	（68）	：	スーパーの警備員

○ スーパー・レジ

片岡、コンポタージュを持ちレジに  
持っていく。

山田（45）「いらっしやいませ。」

山田、コンポタージュをレジに通す。

山田「110円でございます。」

片岡、ポケットから110円を出す。

山田「110円丁度、お預かりいたします。」

片岡、小さく礼をしてイートインスペ  
ースへ向かう。

山田「ありがとうございます。」

茂木（46）、山田に駆け寄る。

茂木「（小声で）またコンポタ君？」

山田「まただよ。もう一か月は来てるよ？」

茂木「仕事してるのかね？ 若いのに。」

山田「（笑いながら）毎日来ているのにしてる  
わけないじゃない。」

茂木「（小ばかにして）そうね。」

○ 同・イートインスペース

片岡、コンポタージュを持って角の席に座る。何もせず、ただボーっとしている。

○同・惣菜コーナー

上野、品出ししながら、片岡をチラチラと見ている。

○同・休憩室

上野、休憩室に入る。

山田、休憩で弁当を食べている。

山田「お疲れさま。」

上野「お疲れ様です。」

上野、ロッカーを開け、帰る支度をする。

山田「今日上がり？お疲れ様。」

上野「はい。お疲れ様です。」

山田「今日も来てたね。コンポタ君」

上野「コンポタ君？ああ……イートインスペ

ースの……」

山田「そうそう！気味悪いよね。」

上野「（理解できず）気味……悪いですか？」

山田「気味悪いでしょ！毎日コーンポタージュだけ買って何時間も居座るのよ？」

上野「なんかやっているのかもしれないじゃないですか？」

山田「いや、ただボーっとしてるだけでしょ？何もやってないよ。若いのに時間無駄にして。本当、どういいうつもりなのか。」

上野「あの、私、この後聞いてみますか？いたらですけど。」

3

山田「え？何を？」

上野「何をしてるか。コンポタ君に」

山田「（半笑いで）あんた変な人だね。やめときな。何されるかわかんないよ。」

上野「何かされたら、その時はその時です。」

山田「いやいや、え？本当に聞くの？」

上野「はい。興味あるので。」

山田「（呆れて）まあ、好きにしたらいいけど。

本当に気を付けなよ。」

上野、帰る支度が終わる。

上野「ありがとうございます。ございます。それじゃあ、お先に失礼します。」

山田「うん。お疲れ……」

上野、休憩室から出る。

山田「（ぼそっと）変な子……」

○同・イトインスペース

片岡、角でボーっと座っている。

上野、コーンポタージュを持って片岡の隣の席に座り、一口飲む。

上野「あ、これ美味しいですね。毎日飲む気持ちわかりました。」

片岡「（驚いて）……」

上野「あ、ごめんなさい。急に話しかけて。ここの店員です。」

と、一礼する。

片岡「（不審に思い）どうも……」

上野「聞きたくて。いつもここで何してるのかなーって。」

片岡「いつも……何もしないです。」

上野「何もしてないんですか？」

片岡「はい。」

上野「なるほど。いいですね。何もしないって。私も好きです。何もしないの。」

片岡「好きで何もしないわけではないです。」

上野「あ、そうなんです。じゃあなんで？」

片岡「（頭を掻いて）なんでって……」

上野「……踏み込みすぎか。すみません。」

片岡「いえ……こちらこそすみません。コンポタージュだけで何時間もここにいて……」

5

……迷惑ですよ……」

上野「いえ……私はただのパートなので。大丈夫です。」

片岡「あの……明日からもここにきていいですか？」

上野「……はい。お客様なので、ご自由に。」

片岡「……ありがとうございます。」

上野「いえ、それじゃあ。」

と、コンポタージュを持ち、立ち上

がる。

上野「また明日。」

と、イトインスペースを去る。

片岡、上野の背中を見つめる。

○（翌日）・同・惣菜コーナー

上野、陳列しながら、イトインスペースにいる片岡を見つめる。

片岡、上野に気付く。

上野、片岡に真顔で小さく手を振る。

片岡、小さく礼をする。

上野、仕事に戻る。

片岡「……」

○同・休憩室

上野、休憩室で帰る支度をしている。

山田、入室。

山田「あ、上野ちゃん！」

上野「お疲れ様です。」

山田「コンポタ君大丈夫だった？」



上野「いい子でした。コーンポタージュも美味しかったし。」

山田「（困惑して）いい子だったって……いや、聞きたいのはコンポタ君は何をしてるのかとか、仕事してるのかとかそういうのを聞きたいんだけど……」

上野「ああ……何も聞いてないです。」

山田「何も聞いてないって……じゃあなんでも話しかけたのよ。」

上野「すみません。そういうつもりじゃなかったの……」

山田「うーん、まあいいわ。コンポタ君ももう来なくなるから。」

上野「え？なんですか？」

山田「さっき店長から聞いたんだけど、イトインスペースをガチャガチャコーナーに変えるらしいよ。」

上野「なんですか？」

山田「なんですかって……その方がもうかるからでしょ。イトインスペースなんか

一円ももうからないんだし。」

上野「そうか……そうですね。それもう決定なんですか？」

山田「決定らしいよ。もう来週には変わってるだろうね。」

上野「そうですか……」

山田「まあ、そういうことだから。コンポタ君はもう来ないかもねー。」

上野「……」

○同・イトインスペース

片岡、角でボーっとコンポタージュを持って、座っている。

上野、私服でコンポタージュを持ち、片岡の隣に座る。

上野「どうも。」

片岡「どうも。」

上野、コンポタージュをしっかりと振ってから飲み始める。

上野「昨日、コンポタージュ振るのを忘れ

てて、コーンが全然出てこなかったのです。」

片岡「あるあるですよね。」

上野「今日もボーっとしてたんですか？」

片岡「はい……すみません。」

上野「謝ることないじゃないですか。」

片岡「いや……はい。そうなんですけど……」

上野「……この場所。好きですか？」

片岡「（困惑して）好き……だと思えます。」

上野「ずっとここにいたいんですか？」

片岡「ずっといたいわけではないですね……」

9

上野「そうですか……実はこのイートインス

ペース。来週にはなくなるみたいなんです  
よ。」

片岡「（驚いて）え、なくなるんですか？」

上野「社外秘なので他言無用ですが……」

片岡「（必死に）それは困ります！ やっと……

やっとだったんです！」

上野「やっと？」

片岡「（うつむいて）……」

上野「なくなるのは確定みたいです。ここに

ガチャガチャスペースを作るらしくて。」

片岡「……そうですか。」

上野「はい。申し訳ないんですけど……」

片岡「（絶望の顔で）いえ、はい……」

上野「……」

片岡「わかりました……」

上野「なんでそんなに苦しそうなんですか？」

片岡「……」

上野「すみません。踏み込みすぎました。」

5秒ほどの沈黙。

片岡「やっと、ここならいれたんです。」

上野「ここなら……」

片岡「（涙目で）……僕、二か月前まで普通に会社行つてて、仕事……してたんですけど……仕事できな過ぎて。みんなに迷惑かけてて、何もできなくて、みんなの倍、頑張らなきゃって、頑張っても全部空回りして。いっぱい考えているうちに家から出れなくなっちゃって。休職することになって。それで……引きこもっちゃって……やっとな家

から出れて。でも家から出て行くところ  
がなくて。その時見つけたのここなんです。  
唯一、家から近くていつまでもいてよくて、  
何もしなくてよくて。」

片岡、涙がこぼれはじめ、深く頭を下  
げる。

片岡「（涙を拭い必死に）すみません！ここ、  
残してほしいです。あと数週間だけでも：  
：お願いします！やっと見つけた大好きな  
場所なんです！」

上野「……すみません。私パートなので。」

片岡「（うつむいて）……そうですよね。すみ  
ません。無理なお願いを言って。」

上野「……私はただのパートです。だけど、  
ここで働く一員です。店長を説得すること  
は可能です。」

片岡「（顔をあげて）説得してくれるんです  
か？」

上野「期待はしないでください。ただ、説得  
はしてみます。」

片岡、上野の手を強く握る。

片岡「ありがとうございます！ありがとうございます！ありがとうございます！ありがとうございます！」

上野「いえ、それじゃあ。今から行ってきます。」

片岡「え、今からですか？仕事終わりじゃ？」

上野「大事なことはすぐ手を付ける派なので。」

上野、一礼してから去る。

片岡、上野に深く頭を下げる。

## ○同・事務室

店長の尾身（５８）が事務仕事をしている。

上野、尾身の目の前に立つ。

尾身「（少し驚いて）おお！上野さんか。何？どうした？上がったんじゃないの？」

上野「すみません店長。イートインスペースの件でお話がありました……」

尾身「ああ、あそこね。ガチャガチャコーナ―にするから。来週の頭に一気に改装する

わ。」

上野「はい。そのガチャガチャコーナーに改装するの、中止にできませんか？」

尾身「え？」

上野「お客様であのスペースがなくなって欲しくないって懇願してきた方がいまして、なんとか中止にできませんかね？」

尾身「（淡々と）うん。無理だね。」

上野「無理……ですか。」

尾身「うん。もう決定したことだし、契約も結んでる。まあ知らせるのが遅くなったのは申し訳ないけど、中止はできない。」

上野「でも、お客様が……」

尾身「（遮るように）コンポタ君でしょ？さっきからお客様って言ってるけど。コンポタ君一人でしょ？一人の意見だけ聞き入れることは出来ないよ。イートインスペースをこのまま続けても売り上げは上がらない。でも、ガチャガチャ上がる。もうこの話終わりでもいい？」

上野「……」

尾身「もういいから、あがりな。お疲れ。」

上野「お疲れ様です。」

上野、少し悔しそうな顔で事務室を去る。

○同・イトインスペース

片岡、ソワソワしながら座っている。

上野、片岡のもとへ行く。

片岡「（勢いよく立ち）あの……どうでしたか？」

14

上野「（申し訳なさそうに）すみません。」

片岡、ゆっくりと座る。

片岡「そうですね。すみません。無理言っちゃって。」

上野「いえ、まだ時間があります。明日もまた説得しますので……」

片岡「いえ……大丈夫です。（作り笑いで）多分神様が甘えるなって言っているんだと思います。ここで時間を無駄にするなって。」



居場所をまた見つけろって……」

上野「すみません。居場所を守ってあげられず、すみませんでした。」

片岡「いや、ありがとうございます。説得までしていただいて。自分、これがいい機会だと思ってまた頑張ります。はい。頑張ります……」

上野「……居場所見つけられそうですか？」

片岡「ここを見つけることで来たので、またどこか見つけれると思います。」

片岡、顔アップ。

片岡「今まで、ありがとうございます。」

○（１年後）同・休憩室

上野、エプロンを付け、仕事の準備をしている。

山田、入室。

山田「あら、上野ちゃん。おはよう。」

上野「おはようございます。」

山田「今日、遅番？」

上野「はい。そうなんですよ。」

山田「今日忙しいから。頑張って。」

上野「はい。頑張ります。」

### ○同・惣菜コーナー

上野、惣菜に割引シールを貼っている。

ふと、イトインスペースがあった場所を見るとガチャガチャコーナーに変わっており、「ガチャゴトン」という音が聞こえる。

尾身「コンポタ君どうしてるかね。」

と、急に背後に現れ、話す。

上野「どうですかね。」

尾身「ま、若いしなんだってできるか。」

上野「そうですかね。」

尾身、バックヤードへと去る。

上野、ガチャガチャコーナーを見つめる。

### ○同・休憩室

上野、仕事が終わりに、私服に着替える。  
着替え終わり、ロッカーを閉め、休憩  
室を出る。

○同・裏口・夜

上野、帰ろうと、警備室の前を通る。  
上野、警備室の中の警備員（68）に  
向かって、

上野「お先に失礼します。」

警備員「あ！上野さん！ちよっと！」

上野、足を止める。

上野「はい？どうしました？」

警備員「いや、あのね、これガチャガチャコ

ーナーの角に隠してあってさ……」

と、コンポタージュがいっぱい入っ  
た袋を出す。袋には付箋が貼ってある。

警備員「忘れ物かなと思って捨てようと思っ  
ただけど、付箋が貼ってあってさ、パー  
トの女性みんなに聞いているんだけど、これ。」

警備員、袋を上野に手渡す。

上野「はい。なんだろう。」

上野、受け取り、付箋に書かれていた一文を読んで大きく目を見開く。

警備員「あ！ちよつと！」

上野、無視して走り出す。

## ○住宅街

上野、袋を持ち、人目を気にせず、息を荒くして走る。

## ○公園

上野、公園に着き、周囲を見渡す。息はまだ荒いまま。

ベンチに座っているスーツ姿の片岡を見つける。

片岡、立ち上がり、

片岡「お久しぶりです。」

と、深々と一礼する。

片岡「横座りますか？」

上野、小さく頷き、片岡の横に座り、

コインポタージュを一つ渡すし、自分の分も取る。

片岡「コインポタージュ。処分されなくてよかったです。」

上野「捨てられる一步手前でした。」

片岡「危なかった。よく考えたらお名前聞いてなかったの。でこうするしかなくて……」

上野「とある女性のパートの方へじゃ普通、手渡されないですよ。」

片岡「（嬉しそうに）でも、すっかり手渡してほしい人に受け取ってもらえた。」

上野「……仕事には戻ったんですか？」

片岡「転職しました。……と言っても、今は正社員ではないんですけど。でも今は無理せず働けてます。」

上野「（微笑んで）見つけたんですね。居場所。」

片岡「はい。おかげさまで見つけることが出来ました。」

上野「いや、私は何もしてあげられなかったの  
で……」

片岡「何を言っているんですか！あの時、味の悪い自分のためにすぐ動いてくれたじゃないですか！あの時、すごくうれしかったんです。そして、結果ってどうでもいいんだなって。結果的にイートインスペースはなくなりましたけど、その過程のあなたの思いが自分はすごくうれしくて（照れて）……なんだろう。すみません。うまく話せなくて……」

上野「いえ、全部話されなくても大丈夫です。

気持ちには十分伝わりました。」

片岡「と、とりあえず。コーンポタージュ飲みますか。」

上野「そうですね。」

上野と片岡、コーンポタージュのふたを開ける。

上野と片岡「あ……」

上野「振るの忘れてましたね。」

片岡「忘れましたね。」

上野と片岡、見つめあい笑いあう。